

# JCMA 関西

Japan Construction Machinery and Construction Association, Kansai Branch Office

JCMA 関西 秋号



- 01 巻頭言
- 02 特集「GX 建設機械認定制度」

- 03 総会報告
- 04 学科試験
- 05 実地試験
- 06 温故知新
- 07 新入会員
- 08 支部行事報告
- 09 編集後記

121  
Autumn  
2024

## i-Construction2.0

### ～施工のオートメーション化に向けて～

近畿地方整備局 施工企画課長 武本 昌仁



国土交通省では、今年4月に建設現場のオートメーション化として「i-Construction2.0」を策定しました。i-Construction2.0では、2040年度までに建設現場の省人化を少なくとも3割、すなわち生産性を1.5倍向上することを目指し、「施工のオートメーション化」「データ連携のオートメーション化」「施工管理のオートメーション化」を3本の柱として、建設現場で働く一人ひとりが生み出す価値を向上し、少ない人数で、安全に、快適な環境で働く生産性の高い建設現場の実現を目指して、近畿地方整備局においても建設現場のオートメーション化に取り組んでいます。

なお、近畿地方整備局では、インフラ分野のDXにも積極的に取り組んでおり、今年3月には、新しい“デジタルトランスフォーメーション”を近畿から発信するため「近畿インフラDXアクションプログラム」を策定し公表したところです。また、インフラ分野に活用できる優れた技術を発掘するため、技術を公募し、建設技術展近畿において、「インフラDXコンペ」として開催しています。優れた技術には近畿地方整備局が試行フィールドを提供することによって、技術開発を促進する取組も進めています。

また、このDX推進には、企業での取組も併せて進めて頂くことが重要です。そのため、インフラDXの取組を継続的に推進している建設会社には、「インフラDX認定制度」として企業を認定し、直轄工事における総合評価方式の加点を行うなど、企業における取組を評価しております。

こういったi-Construction2.0やDXを推進するためには、デジタル技術を活用できる人材育成が急務です。令和3年度には全国に先駆けて、近畿インフラDX推進センターを開設し、ICT施工、BIM/CIM研修、施工のオートメーション化の基礎となる無人化施工研修を行うなど、官民の人材育成に取り組んでおります。建設産業を魅力ある産業に変えるためには、この取組を国、府県そして地方自治体へと裾野を拡げて行くことが重要です。そのためにも自治体などでの小規模工事においてもICT施工を活用できるよう、小型バックホウにICT機器を後付けし、刃先の施工履歴データを出来型管理に活用できる取組を進めており、今年度は実現場での検証を行い、次年度からの展開を目指しています。

担い手不足が叫ばれるいま、人材確保は喫緊の課題であり、いまスマートフォンでも3次元測量ができる時代となっているなど、DXやICTの導入が課題解決に繋がっているという企業の声もあり、この業界で働きたいとなる未来へ向けて取組を進めていきます。

振り返れば2016年度から建設現場の生産性向上として、ICT施工をはじめとするi-Constructionの取組を進めてきた土台があるからこそ、施工のオートメーション化としてのi-Construction2.0が実現できるものと信じております。

今後ともICT施工をはじめとし、建設施工の合理化をさらに進めるよう取り組んでまいりますので、今後とも会員皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 1. はじめに

近年、GXという言葉を目にすることがあります。GX(グリーントランスフォーメーション)とは、温室効果ガスを発生させる化石燃料からクリーンエネルギー中心へと転換し、経済社会全体を変革しようとする取り組みであります。国土交通省では、建設施工において排出される二酸化炭素の低減を図ることで、地球環境保全に寄与することを目的にGX建設機械認定制度を創設し、令和5年10月17日に申請受付が開始され、4社15機種の電動建機が認定され、令和6年9月時点では5社18型式が認定されています。

本号では、GX建設機械の概要、並びに関西地区での導入事例についてご紹介します。

## 2. GX建機の特徴

GX建機は、脱炭素化を推進するためにディーゼルエンジンを動力源としていたのを電動モーターを使用した建設機械です。

下記のような特徴と効果が考えられます。

特徴	効果
排気ガスゼロ	電動モーターのため、排気ガスを出さない。
騒音の低減	エンジン音が発生しないので、作業中の騒音を抑制できる。
運用コストの削減	燃料費の低減などにより、運用コストを削減できる。
メンテナンスの簡素化	エンジンや補器類等のメンテナンス作業が削減できる。
車両寿命の延命	電気モーターの特性により車両寿命の延長が期待できる。

●対象：次のいずれかの駆動方式の電動ショベル又は電動ホイールローダとする

1. バッテリー式：蓄電装置に充電した電気エネルギーを動力とした駆動方式
2. 有線式：有線により外部から供給される電力を動力とした駆動方式

## 3. 関西地区の導入事例

直近での関西地区のGX建機の納入実績を調べたところ1件でした



写真-1【大阪府内 産業廃棄物処理業者ヤードにて稼働中】

駆動源に電気モーターを採用し、“排気ガスゼロ”や騒音・排熱・振動の大幅低減を実現することで作業現場の安全性・快適性を向上させるほかオペレーターのストレス軽減に貢献します。

また、電気モーターの特性により車両寿命が延長されるとともに燃料補給やエンジン回りで必要とされたメンテナンス作業が不要になるため、車両のランニングコスト削減が可能です。

そのほか、電源を有線で直接供給するため充電式の電動車と異なりバッテリー残量を気にすることなく長時間連続稼働できるため、特に産廃処理工場など24時間稼働が必要とされる作業現場での生産性向上が期待できます。

## 4. 関西地区のGX建設機械工事の動向

### ■近畿地方整備局のGX建機発注工事

令和6年度近畿地方整備局における工事・入札について調べてみました。

総合評価落札方式における施工タイプの技術提案評価型において、「カーボンニュートラルに関する取り組み実績」を評価していることがわかりました。詳細は、近畿地方整備局のHPをご覧ください。

<https://www.kkr.mlit.go.jp/gijyutu/sougouhyouka/kouji/qgl8v1000006i0c-att/guidelinev3.pdf>

■滋賀県のGX建機発注工事

近畿2府4県の工事・入札では、滋賀県でモデル工事を実施していることがわかりました。

CO2削減取組評価型において低炭素型建設機械の使用で、GX建設機械の使用を評価しています。

詳細は、滋賀県のHPをご覧ください。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5468481.pdf>

5. おわりに

GX建設機械とは、カーボンニュートラルに資する建設機械で、普及を促進することで、建設施工現場において排出される二酸化炭素の低減を図るとともに、地球環

境保全に寄与することができます。

今回、調べたところ、6社18機種(2024年9月現在)が、国土交通省のGX建設機械認定を受けた機械があることがわかりました。

国内現場の普及展開においては、現場のインフラ環境面や技術面や金額面など、まだまだ多くの課題があるとは思いますが、このような取組を国が中心として建機メーカーや施工会社などが意識することが非常に大切で、積極的に取り組むことで、カーボンニュートラルの実現、地球環境に優しい建設現場の実現に繋がると思います。

GX建設機械の今後の動向に注目して行きたいと思えます。

各社の代表的な機種と仕様を簡単に紹介する(初回認定企業4社のみ)  
認定型式の概要(申請者作成)

- 国土交通省 HP 抜粋 -

(株) 竹内製作所

型式名	TB20e	型式名	TB20e
種類・型式	電動ショベル・バッテリー式		
申請者	株式会社 竹内製作所		
機能・性能・特徴			
<p>(1) これまでと変わらぬ使い勝手 1.8 トンクラスの当社ディーゼルエンジン式ミニショベルと同等のパワーと、1回の充電で8時間稼働できるスタミナを実現</p> <p>(2) ゼロエミッション、静音、低振動、低排熱 ●地球環境と作業環境の両面で、環境に優しい製品 ●都市部や住宅街における密集地での工事、地下や屋内での工事、夜間工事において特に有効</p> <p>(3) ランニングコストを削減 充電に必要な電気料金は、一般的に軽油の調達費用を下回ることが多く、オイル交換などディーゼルエンジンのメンテナンスに必要な費用が不要になるなど、ランニングコスト削減が可能。</p>			

(株) 小松製作所

型式名	コマツ PC311	型式名	PC01E-1
種類・型式	電動ショベル	形式	バッテリー式
申請者	コマツ		
機能・性能・特徴			
<p>▶動力源として Honda Mobile Power Pack e:※や電動パワーユニット (eGX) を搭載し電動化を実現。</p> <p>▶バッテリーは交換式のため、電池残量が少なくなった際もバッテリーを交換すれば作業を継続可能。</p> <p>▶低回転でも力を発揮できる電動モーターの採用により、低回転数ではエンジン式の現行機以上の掘削性を発揮。</p> <p>※: Honda Mobile Power Pack e: は、Honda が開発した着脱式可搬バッテリーです。</p>		 <p>機械質量 : 340kg 標準バケット容量 : 0.006m<sup>3</sup></p>	

コベルコ建機 (株)

型式名	SK135SR-7WE/SK235SR-2WE/SK200-10WE	カタログ名	SK135SRD-7/SK235SRD-2/SK210D-10
機種形式	電動ショベル (有線式)		
申請者	コベルコ建機株式会社		
<p>未来のためのクリーンショベル。 電動式だから排ガス“ゼロ”。カーボンニュートラルに向けたフラッグシップマシン。</p> <p>クリーンかつ省エネの電動モーター駆動式。高出力タイプの電動モーターをパワー源とした電動仕様機。低回転でも作動油流量を確保できる大容量タイプの油圧ポンプを採用し、エンジン駆動式と変わらない作業能力を発揮。環境性や省エネ性といった電動モーター駆動式ならではの特長も、それぞれ高い次元で実現。</p> <p>排ガスや騒音のこもりやすい建屋内作業に最適。現場、経営視点からも地球視点からも環境改善に貢献。</p>			
<p>電動仕様機動力概要</p> 		<p>設備レイアウト例</p> 	
<p>この資料に関するお問い合わせ コベルコ建機株式会社 企画本部 企画管理部 コーポレートコミュニケーショングループ TEL03-5789-2112</p>			

山崎マシーナリー (株)

型式名	ECR25ELECTRIC	カタログ名	ECR25ELECTRIC
種類・型式	電動ショベル・バッテリー式		
申請者	山崎マシーナリー株式会社 (VOLVO 建機 日本販売代理店)		
機能・性能・特徴			
<p>▶バケット容量: 0.092 m<sup>3</sup></p> <p>▶重量: 2,690kg</p> <p>▶油圧配管、クレーン仕様</p> <p>▶現場での排出ガスゼロ</p> <p>▶騒音レベルの大幅な低減</p> <p>▶低いランニングコスト</p> <p>▶非稼働時の電力消費量無し</p> <p>▶従来機(エンジン式)と同等の性能</p> <p>▶フル充電で4時間稼働可能</p>			



## 令和6年度総会

一般社団法人日本建設機械施工協会関西支部第13回通常総会は、令和6年5月15日（水）に大阪市中央区の大阪キャッスルホテルにおいて、団体会員115社（委任状含む）の出席により盛会の内に開催された。

### i-Construction 2.0 を展開

開会にあたって、本部・岩見吉輝業務執行理事から会員各位に対し協会並びに支部活動についての支援、協力にお礼を述べられた。そして「国土交通省が建設現場における特に省人化対策に取り組むため、“i-construction2.0”が発表されたことを踏まえ、当協会においても、こういった動きと連携していくのはもちろん、ICTの普及促進を進めていく」と述べられた。



本部・岩見業務執行理事

### “GX 建設機械認定制度”

また、「建設現場におけるカーボンニュートラルの課題も喫緊の課題である。当協会では国土交通省の“GX 建設機械認定制度”に協力するとともに、新たな取り組みとして環境省の“建設機械の電動化促進”補助金進行団体に選定されております」との紹介があった。

### 関西支部の強みを生かしてさらなる発展を!

深川良一支部長から、当関西支部の大きな特徴として様々な分野の人が集まり団結力も非常に強い。また技術への取り組み等における熱意も大きい。今後、これらの支部の強みを生かし引き続き発展できるように頑張りたいと挨拶があった。



深川支部長挨拶

### 令和5年度事業報告・決算報告の承認及び 令和6年事業計画・収支予算を可決

総会の議事では、令和5年度事業報告、決算報告が行われ原案通りに可決された。なお、今年度は2年の任期満了に伴う役員改正が行われ、支部長には引き続き立命館大学の深川良一氏が再任された。また副支部長についても（株）大林組の北岡隆司氏と日立建機日本（株）荒金秀一氏が再任された。

令和6年度の事業計画では、各部会・技術委員会の開催や「建設技術展 2024 近畿」、「ふれあい土木展 2024」への出展の取り組み、近畿地方整備局との意見交換会の実施なども提案された。また、災害時における近畿地方整備局との協定に基づく協力体制の充実等に取り組むことも報告された。



講師：大阪大学産業科学研究所

教授 大岩 顕 氏

総会後の講演では、「新しい情報処理へ」と題し、量子コンピュータの基礎と現状について講演が行われた。講演では、量子コンピュータの特徴やしぐみについて紹介があり、膨大なデータを高速かつ効率的に処理できるが実用化にはまだ課題も多く残っているとのコメントがあった。

### 永年団体会員表彰

一般社団法人日本建設機械施工協会団体会員等表彰規程に基づき、本部会長表彰の授与が行われ本部岩見理事から賞状が授与された



支部団体会員（9社）	
会員期間 70 年	(株) 大林組
	(株) 鴻池組
	西松建設 (株)
会員期間 60 年	福井鐵工 (株)
	奥村組土木興業 (株)
会員期間 40 年	(株) シンテクノ
会員期間 30 年	(株) 豊工業所
会員期間 20 年	(株) 阪本商会
	(株) クロダテック
個人に対する表彰（1名）	
運営委員 7 年	村中浩昭 (株) 奥村組

### 優良建設機械運転員等表彰

また、関西支部優良建設機械運転員等表彰規程に基づく受賞者の表彰式が行われた。技術者不足が言われている中、建設現場での今後の活躍が期待されるところである。今年度は、運転部門6名、整備部門は2名で、合わせて8名の方が受賞され、記念品や記念バッジが贈呈された。



#### 運転部門（6名）

大和 拓郎	上武建設株式会社
加地 浩一郎	コベルコ建機株式会社
藤本 信幸	株式会社サイガ
網谷 健	酒井工業株式会社
柴垣 雅宏	住之江株式会社
小川 博	日本ロード・メンテナンス株式会社

#### 整備部門（2名）

榎本 貴	サコス株式会社
多炭 和宏	西尾レントオール株式会社

### 総会終了後懇親会を開催



乾杯の発声 小島企画部長

参加で盛大に開催された。

そして、大いに盛り上がる中、荒金秀一副支部長の中締めをもって懇親会を終了した。

総会終了後の懇親会は、深川支部長の挨拶で始まり、来賓の近畿地方整備局小島優企画部長の乾杯のご発声によりスタートし、支部会員をはじめ部会・委員会関係者等が



中締め 荒金副支部長

# 令和6年度 1級・2級建設機械施工管理技術検定試験

## 第一次検定・第二次検定（筆記）を実施

令和6年度の1級・2級建設機械施工管理技術検定（第一次検定・第二次検定（筆記））試験は、令和6年6月16日（日）全国一斉に行われました。大阪会場は、昨年度は大阪工業大学で実施しましたが会場の改修等で、今年度は摂南大学寝屋川キャンパスで行いました。

令和6年度制度改正により、第二次検定の受検申請は第一次検定の合格者に限り受付を行い、これまで行っ

ていた第一次検定の合格を前提とした第二次検定の同年度内での申請受付は取りやめることになったため、例年より少ない受検数となりました。受検者数は、1級と2級を合わせて1,293名でした。

なお、2級における受検種別の内訳は、圧倒的に2種が多く、続いて4種、1種の順となりました。また、相変わらず3種の受検者は1桁となりました。合格率は1級が約29%、2級が約44%でした。



学科試験の様子

表-1 令和6年度第一次検定試験受検者詳細

	1級	2級								
		共通	種別（延人数）							計
			1	2	3	4	5	6		
受検予定者	496	868	60	770	5	60	9	21	925	
実受検者	450	798	49	708	5	54	7	20	843	
受検率（%）	91	92	82	92	100	90	78	95	91	

## 令和6年度制度改正の概要

令和4年度の建設業法改正により、技術検定制度が令和6年度から改正されました。主な変更内容は、受検資格に関する改正で下記のように変わりました。

- \* 1級第一次検定の新受検資格は、受検年令を満たせばどなたでも受検可能となります。
- \* 1級第二次検定の新受検資格となる実務経験は、1級第一次検定合格後または2級第二次検定合格後の建設機械施工における「施工の管理」に関するものに限られます。
- \* なお、経過措置により、令和10年度までは旧受検資格（令和5年度以前の受検資格）での受検もできます。

旧受検資格は、最終学歴の学校を卒業後の建設機械施工に関する実務経験となります。

### 1級第一次検定受検資格

旧受検資格（令和5年度以前）	新受検資格（令和6年度以降）
次のいずれかの該当者。 ・ 2級技術検定 <sup>※1</sup> の合格者 ・ 1級第二次検定の第資格を満たす者	受検年度の年度末において満19歳以上となる者。

※1：2級技術検定：2級建設機械施工管理第二次検定または2級建設機械施工技術検定をいう。

### 1級第二次検定受検資格（令和10年度までは新旧いずれの受検資格でも受検できます。）

旧受検資格（令和5年度以前）	新受検資格（令和6年度以降）
1級第一次検定の合格者であって、学歴または保有資格に応じた実務経験年数を満たす者。ただし、実務経験は、建設機械施工に関するものに限る。	1級第一次検定の合格者であって、1級第一次検定合格後または2級技術検定 <sup>※1</sup> 合格後の実務経験が所定の年数を満たす者。ただし、実務経験は、当該種目の業種 <sup>※2</sup> に係る工事における建設機械施工の施工の管理に関するものに限る。

※1：2級技術検定：2級建設機械施工管理第二次検定または2級建設機械施工技術検定をいう。

※2：当該種目の業種：土木工事業、とび・土木工事業、舗装工事業をいう。

# 令和6年度 1級・2級建設機械施工管理技術検定試験（第二次検定）

## 第二次検定試験

令和6年度の1級・2級建設機械施工管理技術検定試験（第二次検定）は、令和6年度制度改正により、第二次検定の受検申請は第一次検定の合格者に限り受付を行い、これまで行っていた第一次検定の合格を前提とした第二次検定の同年度内での申請受付は取りやめることになったため、昨年度より少ない受検者数で、下記の日程で実施されました。

### 【小野会場】

令和6年8月21日（木）

### 【明石会場】

令和6年9月6日（金）～9月7日（土）

今年度の第二次検定の実受検者数は、令和5年度分の学科試験合格者が主となり、1級と2級の合計で199名と減少しました。



試験開始前の全体説明（小野会場）

受検種別では、第2種（バックホウ）が圧倒的に多くなった一方で、今年度の特徴として第4種（ロード・ローラ）第6種（アースオーガ）の受検者数がこれまでと比べ減少しました。

表-1 令和6年度（1級）第二次検定試験受検者数

1級	1種	2種	4種	6種	計
受検予定者	8	22	33	1	64
実受検者	8	21	31	1	61
受検率（%）	100	95	94	100	95

表-2 令和6年度（2級）第二次検定試験受検者数

2級	1種	2種	4種	6種	計
受検予定者	6	136	3	8	153
実受検者	5	122	3	8	138
受検率（%）	83	89	100	100	87



試験開始前の全体説明（明石会場）



試験コース説明



第1種 ブルドーザ



第6種 アースオーガ



第4種 ロード・ローラ



第2種 バックホウ

# 建設の機械化 を振り返って

昭和 37 年 9 月発行第 151 号より



第 151 号表紙写真  
三菱 WS-20 型 トラクターショベル  
三菱日本重工業株式会社  
三菱ふそう自動車株式会社

昭和 37 年 9 月に発行された「建設の機械化」151号に、昭和 37 年 5 月に発足した阪神高速道路公団の紹介記事が掲載されていました。

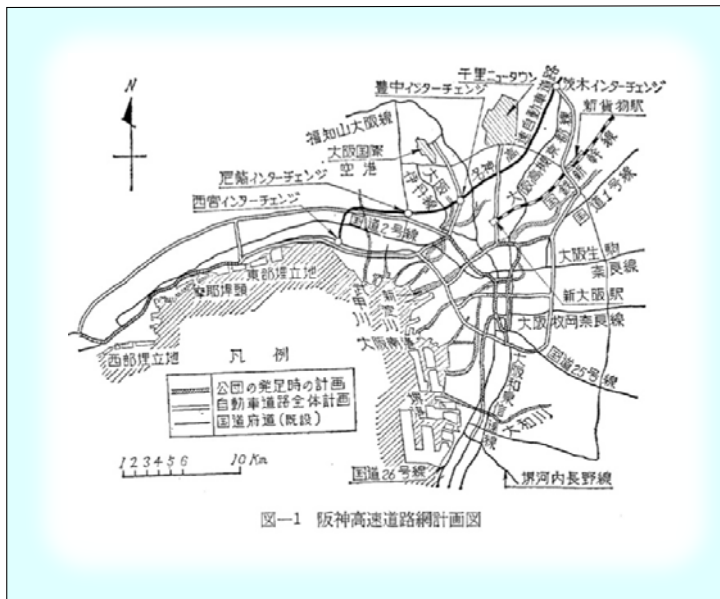
また本記事が発刊された時期は、昭和 39 年の東京オリンピック開催という特殊事情も加わり大規模な工事も多く「首都地下鉄工事の現状」と題した記事も掲載されていました。

## 阪神高速リニューアル工事進行中

阪神高速道路の建設・管理をしていた阪神高速道路公団は 1962 年 5 月 1 日に設立されたが、現在は阪神高速道路株式会社に引き継がれています。

図—1は当時の計画図です。現在は建設後半世紀を経過し老朽化が進行していることから、リニューアル工事が順次実施されています。

また、阪神高速道路の構造は一般道路とは分離した平面交差のない高架式となっていました。現在では山間部や都市部でトンネル構造も採用されています。



図—1 阪神高速道路網計画図

## 阪神高速道路公団

長谷川五郎 (記)

阪神高速道路公団計画部計画課長

### 1. まえがき

阪神高速道路公団は昭和 37 年 5 月 1 日に発足した新しい公団である。

この公団設立の目的は人口の集中と建築容積の増加並びに自動車台数の激増によって惹起する都市交通の混乱に対処するために、大阪市の区域および神戸市の区域並びにそれらの区域の間および周辺の区域、すなわち阪神地区において、有料の自動車専用道路の建設および管理を総合的かつ効率的に行うことにより、自動車専用道路の整備を促進して、交通の円滑化を図り、これらの地域における都市機能の維持および増進に資することである。〈中略〉

### 3. 高速道路網

阪神高速道路は図—1のようなマスタープランがたてられている。このマスタープランも今後の交通事情によって検討が加えられる必要があるが、一応現在の計画では 9 路線、延長約 140km が計画されている。

公団としては、これらの路線のうちから昭和 43 年～昭和 45 年に平面街路が飽和し都市機能がまひすることに対処するため、大阪都心部を 1 周する環状線と、この環状線と都心周辺部を連絡する 6 放射路線、神戸市の臨港部を東西に縦貫する神戸臨港線の計 8 路線、全延長約 70km を当初の画とした。

〈中略〉

路線の経過地の選定にあたっては、民地の買収による市民の迷惑をできる限りさけると共に、工事費の節減をはかり、工事期間を短縮するため、極力不利用地・河川敷・公共用地・広幅員の道路等を利用することにしており、やむを得ず民有地を通る場合は建築防火帯の造成を合わせて考慮し、高架構造物の路下を建築物として利用するようにして、被補償者の収容を考慮する。

(以下省略)

※原文のまま 一部抜粋

# 新入会員紹介



## 会社概要

会社名：株式会社ワキタ  
代表者：代表取締役社長 脇田 貞二  
株式上場：東京証券取引所 プライム市場  
所在地：本社 〒550-0002  
大阪市西区江戸堀一丁目3番20号  
TEL：06-6449-1901  
賃貸部門 東京中央支店 〒105-0014  
東京都港区芝一丁目6番10号 芝SIAビル8F  
TEL：03-5439-4631  
仙台支店 〒983-0002  
宮城県仙台市宮城野区蒲生二丁目32番3号  
TEL：022-258-1116  
大阪中央支店 〒559-0025  
大阪市住之江区平林南二丁目10番90号  
TEL：06-6683-5151  
事業所数：全国約70ヶ所  
設立：1949年5月4日  
事業内容：【建機事業】土木・建設機械、荷役運搬機等の販売及び賃貸  
【商事事業】映像・音響機器等の販売、介護用品・介護機器の販売及び賃貸  
【不動産事業】不動産（オフィスビル、マンション等）の賃貸、戸建分譲住宅等の販売及びホテルの経営

## 会社紹介

ワキタは、1949年の創業以来、事業を通じ社会に貢献することを基本理念とし、株主・投資家の皆様、お取引先の各社様、従業員等の利益をも尊重しつつ、会社を堅実に発展させることを経営の基本方針として歩んでまいりました。

船舶機械の事業から始まり、それが土木・建設機械へと広がる中で、AV機器や建築用石材をはじめ、環境関連機器など多種にわたる商材を取り扱う商社として事業活動を続けてきました。

さらに、現在では産業施設や商業施設・店舗への設備ファイナンスをはじめ、商業用不動産の賃貸・売買、戸建・分譲等の不動産事業の分野へも展開いたしております。

土木建設分野では国土交通省が進める i-Construction を、グループ会社（11会社）と共に強化しており、ワキタグループにてワンストップサービス体制を構築しております。より高度で確かなサービスのご提供を行っておりますのでご愛顧の程、宜しくお願い致します。



## 会社概要

会社名：株式会社コート  
代表者：代表取締役 堀 具王  
所在地：本社 〒761-0704  
香川県木田郡三木町下高岡 3222 番地  
大阪支店：〒565-0803 大阪府吹田市新芦屋下 26 番 10 号  
TEL：06-6876-4821  
高松営業所：〒761-0704 香川県木田郡三木町下高岡 3222  
TEL：087-898-6110  
松山営業所：〒791-8013 愛媛県松山市山越 1 丁目 12-1 ラピス山越  
TEL：089-907-3383  
高知営業所：〒781-0806 高知県高知市知寄町 3 丁目 209 土佐商会ビル  
TEL：088-884-1554  
徳島営業所：〒779-3604 徳島県美馬市脇町北庄 231  
TEL：0883-53-3677  
東京事務所：〒192-0041 東京都八王子市中野上町 5 丁目 24-8  
TEL：042-624-2151  
設立：1989年12月  
事業内容：標識・道路施設事業（企画・調査・設計・製造・販売・施工）  
鉄道サイン関連（車両・駅舎・店舗ラッピング、LED照明器具各種）  
建築関連事業（内外装フィルム施工販売）  
アルミ加工事業（切断・穴あけ・カール曲げ・溶接ほか加工一式）

## 会社紹介

弊社は1956年（昭和31年）9月香東電機株式会社の道路施設部として発足し、1989年（平成元年）に株式会社コートとして設立以来今日まで「交通安全のパートナー」として交通安全関連を生業として歩み、道路標識の創業は60数年を数え全国の特に四国のモータリゼーションの夜明けと共に今日まで道路標識の製造・施工を行ってまいりました。

時代は目まぐるしく移り変わり道路における自動運転環境支援、高齢者・障害者のための安全で安心な環境整備、年々増加する訪日外国人案内のための施設整備、愉快にそして優美な空間を創造する電車ラッピング等、当社が皆様のお役に立てるための項目は多種多様に渡り気が引き締まる思い一杯です。

私達コートマンは、社会の必要性に迅速に対応し、そして効果的な提案、開発能力と製造及び施工能力を駆使して常に社会に必要なとされる会社、心豊かな社会環境の創造を目指して研鑽してまいります。

## 奥村機械株式会社

### 会社概要

会社名：奥村機械株式会社  
 代表者：代表取締役 奥村 弘幸  
 所在地：本社 〒570-0003  
 大阪府守口市大日町 3-4-36 NOORDWESTEN 大日ビル 5 階  
 TEL：06-6901-7016 代表  
 事業所：27ヶ所（大阪府 13 ヶ所、兵庫県 2 ヶ所、京都府 2 ヶ所、奈良県 3 ヶ所、滋賀県 5 ヶ所、埼玉県 2 ヶ所）  
 設立：1964 年 5 月 21 日  
 事業内容：1. 土木建設鉙山機械器具並びに仮設機材の設計、製作、販売、修理及び据付業  
 2. 鉄骨及びハウス等の請負、組立、施工、修理関連業  
 3. 土木建設鉙山機械器具並びに仮設機材のレンタル及びリース業  
 4. 自家用自動車の有償貸渡業  
 5. 自動車（新車、中古車）の販売及び整備修理業  
 6. 証券投資  
 7. 農業機械器具並びに園芸用品の販売、レンタル及びリース業  
 8. 医療機械並びに介護用品の販売、レンタル及びリース業  
 9. 貨物利用運送事業法に基づく第一種利用運送事業  
 10. 不動産の賃貸及び管理  
 11. 上記に付帯又は関連する一切の事業

### 会社紹介

奥村機械株式会社は、1958 年の創業以来、建設機械のレンタル、販売、修理を通じて多くのお客様のプロジェクトを支えてきました。10,000 社以上の取引実績があり、信頼と実績を重ねて成長を続ける総合レンタル商社です。小型の工具から大型の建設機械まで、幅広い商品を取り揃え、お客様の多様なニーズに応えることを目指しています。また、関西地区を地盤にネットワークを広げ続け、迅速な対応、急なトラブルにも柔軟にサポートできる体制を整えています。特に 24 時間利用可能なヤードを設けることで、夜間や早朝の現場作業にも対応し、より便利にご利用いただける環境を提供しています。奥村機械は、お客様の効率化と安心・安全な作業環境の実現に「頼れるパートナー」として貢献し続けていきます。



## 関西ロードサービス株式会社

### 会社概要

会社名：関西ロードサービス株式会社  
 代表者：代表取締役 北川 真宏  
 所在地：本社 〒563-0043  
 大阪府池田市神田 3 丁目 12 番 14 号  
 TEL：072-754-0219 FAX：072-754-0229  
 事業所：神戸支店 〒658-0023  
 兵庫県神戸市東灘区深江浜町 116 番  
 TEL：078-451-9129 FAX：078-451-9119  
 設立：1964 年 9 月 4 日  
 事業内容：道路維持全般、交通安全施設工（ガードレール、フェンス工事、歩道柵、SCFR 工法）遮音壁工事、道路清掃全般、舗装工事、標識工事、区画線工事

### 会社紹介

弊社は交通安全施設工事、標識設置工事、遮音壁設置工事、路面標識設置工事を主に手掛けております。近年では、東北自動車道での防護柵更新工事、東名阪自動車道での標識撤去工事と関西だけに止まらず各地で活動しております。

また、柱の根腐れによる転倒を防ぐために SCFR 工法での補強工事も行っております。

業務に於きましては、災害対策等操作業務を長年に渡り請け負っており、地震や大雨による自然災害の復旧にも万全を尽くし取り組んでおります。

建設業界におきましては、昨今の材料費の高騰や時間外労働の上限規制といった厳しい状況が続いておりますが、全社一丸となりお客様に満足してもらえる品質、サービスを心がけ邁進してまいります。



# ブリッジメンテナンス株式会社

### 会社概要

会社名：ブリッジメンテナンス株式会社  
代表者：代表取締役 高木 宏  
所在地：本社 〒658-0083  
兵庫県神戸市東灘区魚崎中町 1-1-15-116  
TEL：078-940-2085 FAX：078-940-2086  
設立：2009年9月  
事業内容：橋梁の補修・補強工事、調査診断

### 会社紹介

弊社は近畿エリアを中心とした橋梁の補修・補強工事の専門会社です。高度成長期に建設された橋の多くは現在、老朽化の問題に直面しており、その補修・補強が急務とされています。コンクリート橋・鋼橋の調査診断から、補修工法の提案工事まで、安全安心を第一に、丁寧な施工を心がけています。

近年、兵庫県内の国道の橋梁補修工事や神戸新交通株式会社発注の六甲アイランド線の耐震補強工事、神戸市内全域で多岐にわたる橋梁保全工事を主に手掛けてきました。橋のスペシャリストとして、顧客からの厚い信頼を得ています。

今後も施工能力の向上はもとより、橋全体の安全を守ることを通して社会のインフラに貢献し、お客様との信頼関係、地域社会の発展に尽力いたします。



# JFE シビル株式会社

### 会社概要

会社名：JFE シビル株式会社  
代表者：代表取締役 門田 純  
所在地：本社 〒111-0051  
東京都台東区蔵前 2丁目 17番 4号 JFE 蔵前ビル 5階  
TEL：03-3864-3670  
事業所：関西支店 〒530-0003  
大阪市北区堂島 1丁目 6番 20号 堂島アバンザ 10階  
TEL：06-6344-7606  
東北支店 〒984-0051  
仙台市若林区新寺 1丁目 2番 26号 小田急仙台東口ビル 8階  
TEL：022-385-5092  
横浜支店 〒220-0004  
横浜市西区北幸 1丁目 11番 15号 横浜 STビル 8階  
TEL：045-594-7401  
名古屋支店 〒450-6427  
名古屋市中村区名駅 3丁目 28番 12号 大名古屋ビルヂング 27階  
TEL：052-569-1381  
設立：1972年1月  
事業内容：総合建設業  
・特殊工法（ジャッキアップ）  
・土木工事舗装工事、標識工事、区画線工事

### 会社紹介

当社は 1972 年の設立以来、特殊なジャッキシステムを用いて重量物を昇降させる工事や橋梁工事等を手掛けており、ジャッキについては主に次の3つの工法をご提供しています。

「スーパージャッキ工法」は、吊材に節付きロッドを採用することでズレなく昇降量の微調整が可能なることを特徴としており、これまでに 5000t を超える建造物（東京ビッグサイト）の吊上げや、高さ 200m 級煙突筒身のダルマ落し式解体における吊下げ等に適用されています。

「スリップフォーム工法」は、高層構造物におけるコンクリート壁の連続打設を可能とする型枠装置を多数のジャッキの変位を同調させて移動させることを特徴としており、東京スカイツリーの心柱やコンクリート煙突等の構築に適用されています。

「支承取替工法」は、平面的に多数のジャッキを配置して構造物をジャッキアップする際に、各ジャッキ位置の高さと反力の相対差が指定値以内となるよう指定高さまでのジャッキアップ動作を自動制御できるシステムを用いることを特徴としており、建築物の免振支承や橋梁の支承の取替え工事に適用されています。

# 支部行事報告

## 支部行事報告（4月）

### ■建設用電気設備特別専門委員会（第495回）

月 日：4月10日（水）  
場 所：中央電気倶楽部 会議室  
議 題：① 競争法コンプライアンス規定、プライバシーポリシー確認  
② 委員会総会  
③ JEM-TR236 審議  
④ JEM-TR104 報告

### ■支部監査

月 日：4月22日（月）  
場 所：関西支部 会議室  
出席者：田口定一支部監査役、神谷敏孝支部監査役  
内 容：令和5年度決算報告及び関係書類に基づく監査の実施

### ■企画部会

月 日：4月23日（火）  
場 所：関西支部  
出席者：村中浩昭企画部会長以下2名  
議 題：① 令和5年度事業報告（案）及び決算報告（案）の件  
② 令和6・7年度運営委員選任の件  
③ 優良建設機械運転員等表彰の件  
④ 令和6年度本部会長表彰の件  
⑤ 会員の推移  
⑥ 総会後の講演会について  
⑦ その他

### ■運営委員会

月 日：4月25日（木）  
場 所：大阪キャッスルホテル  
出席者：深川良一支部長以下24名  
議 題：① 令和5年度事業報告（案）及び決算報告（案）の件  
② 令和6・7年度運営委員選任の件  
③ 優良建設機械運転員等表彰の件  
④ 令和6年度会長表彰について  
⑤ その他

## 支部行事報告（5月）

### ■支部通常総会

月 日：5月15日（水）  
場 所：大阪キャッスルホテル  
出席者：深川良一支部長以下115名  
議 題：① 令和5年度事業報告及び決算報告の件  
② 任期満了に伴う運営委員選任に関する件  
③ 令和6年度事業計画及び収支予算の件  
④ 本部事業概要報告  
⑤ 令和6年度会長表彰  
⑥ 優良建設機械運転員等表彰  
講 演：『新しい情報処理へ』

講師：大阪大学 産業科学研究所 教授  
大岩 顕氏

### ■建設用電気設備特別専門委員会（第496回）

月 日：5月22日（水）  
場 所：中央電気倶楽部 会議室  
議 題：① JEM-TR236（建設工事用400V級電気設備施工指針）審議  
② JEM-TR246の分担案について  
③ その他

## 支部行事報告（6月）

### ■「緊急災害応急対策業務に関する協定書」に基づく操作訓練講習会

月 日：6月3日（月）  
場 所：近畿地方整備局近畿技術事務所  
議 題：① 災害対策用機械による応急復旧活動について  
② 災害対策用機械操作訓練  
③ 無人化施工機械操作訓練

### ■令和6年度建設機械施工技術管理技術検定試験監督者打合せ

月 日：6月10日（月）  
場 所：関西支部  
出席者：松本事務局長以下10名  
議 題：① 試験監督要領について  
② その他留意事項

### ■令和6年度1・2級建設機械施工技術管理技術検定試験

月 日：6月16日（火）  
場 所：摂南大学寝屋川キャンパス  
受検者：1級（一次407名、二次（筆記）43名）  
2級（一次（共通）798名、一次（種別）1種49名、  
2種708名、3種5名、4種54名、5種7名、  
6種20名）二次（筆記）145名

### ■建設用電気設備特別専門委員会（第497回）

日 時：6月26日（水）  
場 所：中央電気倶楽部 会議室  
議 題：① JEM-TR236（建設工事用400V級電気設備施工指針）改正案審議  
② 意見交換会  
③ その他

## 支部行事報告（7月）

### ■建設用電気設備特別専門委員会（第498回）

日 時：7月17日（水）  
場 所：中央電気倶楽部 会議室  
議 題：① JEM-TR236（建設工事用400V級電気設備施工指針）審議  
② 次の改正審議規格（JEM-TR246）審議（または新様式について）  
③ その他

支部行事報告 (8月)

- 令和6年度第1回広報部会  
月日：8月5日(火)  
場所：関西支部  
出席者：木村泰男広報部会長以下5名  
議題：①年間事業計画について  
②「JCMA関西」第121号について
- 令和6年度1・2級建設機械施工管理技術検定  
(第二次検定)試験監督者打合せ  
月日：8月9日(金)  
場所：関西支部  
出席者：児玉孝司事務局長以下4名  
議題：①実地試験実施要領について  
②その他
- 令和6年度1・2級建設機械施工管理技術検定試験  
(第二次検定)  
月日：8月21日(水)  
場所：キャタピラー教習所(株)  
延受検者数：61名(1級13名、2級48名)

支部行事報告 (9月)

- 令和6年度1・2級建設機械施工管理技術検定  
(第二次検定)  
月日：9月6日(金)～9月7日(土)  
場所：コベルコ教習所(株)  
延受検者数：419名(1級134名、2級285名)

編集後記

今年も早いもので残り2ヶ月をきる季節となりました。11月(霜月)は旧暦では12月。旧来より12月となると霜が降りてくる季節だったから霜月と言われたとの一筋らしいですが少し思い返しますと、今年も月見頃の9月～10月まで猛烈な暑さが続き本当に地球温暖化現象だと思わされる本当に辛い夏でした。

さて今回特集で上げさせていただいたGX建機、自動車業界では電気自動車(EV)が先駆けて普及しつつありますがインフラ問題や価格含めた諸問題も多く普及が難航しているような情勢をよく耳にします。

建設機械の稼働する現場も多種多様に及び今後の普及については業界を上げて取り組んでいく必要性もあるかと思いますが、近い将来GX建機が普及し温暖化減少への一役を担ってくれる事を思う次第です。

原稿をお寄せください

『JCMA関西』に原稿をお寄せください。内容はなんでも結構です。  
新機種・新工法の紹介、社内報の紹介、  
随筆、川柳、提言、体験記、ご意見、など…  
送り先：一般社団法人日本建設機械施工協会 関西支部

- 建設用電気設備特別専門委員会(第499回)  
日時：9月11日(水)～12日(木)  
場所：長崎県五島市  
議題：見学会(浮体式洋上風力発電)
- 令和6年度第2回広報部会  
月日：9月18日(水)  
場所：関西支部  
出席者：木村泰男広報部会長以下5名  
議題：①「JCMA関西」第121号について  
②今後行事予定の確認
- 令和6年度施工技術報告会第1回運営会(WEB会議)  
月日：9月25日(水)  
場所：関西支部  
出席者：児玉事務局長以下10名  
内容：令和6年度施工技術報告会の開催概要について
- 「建設技術展2024近畿」主催・共催者会議(第2回)  
月日：9月27日(金)  
場所：大阪マーチャンダイズ・マートビル  
出席者：児玉事務局長  
議題：①「建設技術展2024近畿」のプログラム及び全体概要について  
②開会式出席依頼について  
③注目技術賞の審査員について  
④当日の動員体制について  
⑤その他

また今回は近畿地方整備局 施工企画課長 武本昌仁様に巻頭言「i-Construction2.0～施工のオートメーション化に向けて」と題し昨今の様々な産業界において担い手不足が問題となっている事を、建設業界でもDXやICT導入によってこれらの問題解決の糸口となるため官民一体となって取り組む必要性をご寄稿頂きました。

武本様初め今回ご執筆頂いた皆様には改めて厚く御礼申し上げます。

最後に本誌(121号)は令和4年4月よりの約1年半ぶりの発刊となりました事改めてお詫び申し上げます。

編集部も新たなメンバーも加わり、今後は新たな気持ちで会員の皆様へ有益な情報提供が出来ますよう取組んでまいります。何卒今後共ご支援ご協力の程お願い申し上げます。  
編集部一同

JCMA関西編集委員  
木村泰男(委員長)  
小段栄一  
田口雅章  
小西伸之  
新稲信人  
小迫和彦  
児玉孝司(事務局)  
松本克英(事務局)  
橋爪涼子(事務局)



ておご  
いま待感  
ましち想  
すしを



至天王寺 交通: 地下鉄谷町線天満橋駅④番出口より徒歩3分  
京阪電車天満橋駅より徒歩5分

一般社団法人 **日本建設機械施工協会関西支部**

〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル  
TEL. 06 (6941) 8845  
FAX. 06 (6941) 1378  
e-mail jcmakans@muse.ocn.ne.jp  
http://jcmakansai.main.jp